

日本記者クラブ会報

第118号
1979年
12月10日発行

東京都千代田区内幸町二ノ二ノ一
プレスセンタービル9F 電話100
社団法人 日本記者クラブ 発行
電話五〇三―二七二二(代)

現役に魅力のある企画を軸に 女性ゲストの招請にも力点

企画委員長 藤村 邦苗

今年のご承知のとおり日本記者クラブ創立10年ということで、その記念行事のプランづくりが、昨春秋ごろから企画委員会に課せられた大きな仕事だった。

「10年の歩み」の発刊、お世話になった方々をお招きしての記念パーティー、それから、単なるお祭り騒ぎに終わらせず、プレスの集まりであるクラブにふさわしい内容を持つ研究、討議の場を、という会員の要望をうけて計画した、アジアと日本を主題とするパネル・ディスカッション―各会員や事務局、さらに草創期以来の先輩方のご協力を得て、十

一月に無事終了した。厚くお礼を申しあげる。

ことし一月の会報に、酒井理事長は、ワーキング・プレスの積極的参加、ということを書いておられる。

これは、昨年五月の理事長就任の際の挨拶でものべられていることなのだ、実は、記者クラブ創立以来の課題でもある。親睦がクラブの目的の重要な一つであることはいうまでもないが、現実には、日々の紙面に記事を書き、電波に語っている現場の記者諸君の姿を、クラブルームで、あるいはゲストへの質問者のなかにもっと多く見たい、というのがわれ

われの願いである。

10周年記念のパネル・ディスカッションにせよ、企画委員会でプランをたてる毎月の記者会見にせよ、そういう願いを実現しやすい、つまり、ワーキング・プレスが参加したくなるような魅力あるものを、ということの基本にして考えてきた。

最近では、クラブゲストの発言が、そのまま翌朝の新聞にニュースとしてのが多くなくなったような気がする。大臣などを招いての昼食会に、担当のクラブ記者が出席して、熱心にメモをとる姿も目立ってきた。

先輩に遠慮？してか、質問が少いのが残念だが……。帝国ホテル時代とこの三月の二回にわたってクラブの昼食会に出席のフォード前米大統領は「建物も食事も、ワシントン・ナショナル・プレス・クラブと比べものにならないほどよい」と言ってくれたが、鋭く、いい質問でもそうありたいものだ、と念願している。

それから忘れずに報告しておきたいことがある。企画委員会が努力したことの一つに、女性のゲストをできるだけ多く招きたい、ということがあった。結果としては、四月に来日した中国の「大姐」鄧穎超全人大常務委副委員長（故周恩来首相夫人）、日本のこれまた「大姐」ともいうべき市川房枝さん、ブルガリアの大統領の令嬢で文化相でもあるリュドミラー・ジコフさん、それから、シリーズ企画「国際人」の講師をお願いした中根千枝東大教授など数人にとどまったが、社会の中で女性の担

う役割がますます多くなっている時代だけに、これからも積極的にこの方針をすすめていきたいと思っている。会員、あるいは会員社の女性記者から、ゲストまたは講師にふさわしい方のご推薦をいただきたい。

十二月一日現在の会員状況

法人会員	一四二社
基本会員	六一四人
個人会員	八二五人
法人・個人賛助会員	
特別賛助会員	四二社 一二四人
名誉会員	五二人
計	一八四社 一、六二三人

縦割り社会に“個人の顔”を求めて

藤 本 有 典

さる十一月七日の理事会で、クラブの職員の服務規定と事務局長内規が決定、その規定によって、私は本年末で事務局長を辞任することになります。

私が時事通信社を役員定年で辞任直後、クラブの事務局長に就任したのが、昭和四十九年六月一日です。から、早いもので五年半を経過しました。クラブは十一月一日、創立十周年を迎えたので、私が事務局長だった期間は、クラブの歴史の半ば以上になったわけです。

私の前任者だった前田雄二事務局長、春原昭彦事務局長代理のころはクラブ草創期で、そのご苦労も大変だったでしょうが、私の任期中は、クラブにとっては激動期であり、いわばその基盤作りの時期でもありました。

た。

事務的な面での、この間の事情は「十年の歩み」にも詳しく書いておきましたから、ここではふれないことにしますが、その時、その時で、仕事が行うべく運んだ時、逆に、気苦しい日々が続いたこともありましたが。しかし、いま、ふり返ってみると、それらの一つ一つが楽しく思い出されます。

私は、事務局長就任まで、時事通信社を代表して、毎月の理事会にも出席してまいりましたので、クラブの仕事の大体はわかっているつもりですが、実際に仕事を始めてみると、新しいことだらけでした。

私は昭和十三年、当時の同盟通信社に入社以来、一貫してジャーナリズムの世界に生きてきましたが、ジ

ャーナリストの仕事というのは基本的に「短期決戦型」だと思いがすが、この新しい仕事は、毎日が前日の続きで、いわば「長期継続型」だということに気がつきました。ということは、いつも頭の中に、自分のコンティニューイティーを持っている必要ありません。

◇ ◇

クラブ運営の基本方針は、もちろん、総会、理事会以下各機関で決定していただき、事務局は、そこで決められたことを忠実に実行すればよいわけで、私はいつも自分自身に、「事務局の一職員に徹する」ことを心がけてきました。クラブでは会員はマスターであり、職員はサーバン

トです。とはいっても、理事や委員の方々は各自、自社で重要な地位を占めているわけですから、いつもクラブに詰めていて、クラブの実情を周知するというわけにもいきません。

クラブの運営は、クラブ員のボランティア活動によるのが建前ですが、日本のどの団体、とくに日本記者クラブのように、運営の責任が各企業（新聞社や放送会社）にあり、一般のクラブ、特に外国のクラブのように「個人」の集団ではなく、クラブの役員といえども、個人ではなく、いわば日本の「縦割り社会」の中で各企業と強い結びつきを持っておられるので、外国のこの種のクラブのように役員がボランティア活動だけではクラブが動かないということにもなりません。

日本の団体では専務理事制を布いているところが多いのもうなずけます。日本記者クラブでも、常時クラブの仕事に専念している事務局が、理事会その他の機関の「舵取り」をしなければならぬ局面が多いのも事実です。

しかし、このクラブも将来「個人

事務局長在任5年半をふり返る

単位”のクラブになることが望ましいと思いますし、その時には、完全にクラブ員の手で運営されることになると思いますので、この点からも事務局は、なるべく出しっぱらわないで、裏方に徹するようにすべきだ、と私は思います。

◇

◇

外国のクラブですと、オフィサーに選ばれば、できるだけクラブに顔を出して、会員相互の親睦や、外部のお客の応接に当たるのが通常ですが、このクラブではそうはいかないので、事務局員、とくに事務局長にとって

は、周囲の人々との接触が重要な仕事になります。クラブの日常の活動をスムーズに運ぶためには、記者会見のゲストについても、レストランのメニューやウェイターの客扱いについても、いつもクラブ員の気持や考え方を知っていなければなりません。

事務局員が、レストランや

ラウンジをわがもの顔に使っているのはけしからん”という意味のお叱りや、あるクラブ員から受けたことがあり、その後、しばらく食事もレストランでとらず、従業員控室でとるようにしたところ、多くの会員から”どうしたのだ。事務局長がクラブ員の前に顔を出さないでは、連絡が悪くなって困る”という苦情になってはね返ってきました。私自身、事務局長は一種の接客業だと思いますし、私自身がクラブ員に仲よくしていただくことによって、クラブ員同志のヒューマン・リレーションも私を介して広がって行くのがよいと思っています。

◇

◇

いま、事務局長辞任に当って、有難く思うことは、多くのクラブ員の方々と仕事の上でお近づきを得たことで、これは私個人にとって大きな財産になって残るでしょう。私も明年からは個人D会員としてクラブに籍を置かしていただき、こんごはクラブでお知り合いになれた方々と友

達として、長くおつき合いいただきたい、と思っております。

クラブ員だけでなく、外部の多くの人たちとも事務局長としてお知り合いになりました。この方たちとも、こんご、折にふれてお会いし、ごあいさつできることも、前事務局長の特権といえましょう。

さらに在任中、多くのゲストをクラブに迎えました。これらの方たちのお話を聞くことができたことも有難いことでした。年をとって読書力の衰えた私にとっては、国の内外各方面の一流の方たちのお話しを聞き、大いに耳学問をさせていただきました。

私は在任中、不偏不党、国際的にも絶対中立を守るつもりで、個人的意見らしいことは一切外部に発言したり、投稿したりしないように心がけてきました。その意味でも各方面の方々から同じようにおつき合いいただけたと思っています。

外国の大使館からも、その国のナショナル・デーや折にふれてのパーティーにご招待をいただき、多くの大使の方々、報道担当官の人々とも

お知り合いになりましたし、外人記者の諸君にも多くの友人ができました。このようなことは他の職場ではほとんどあり得ないようなことで、私の一生にとって大きな収穫になりました。

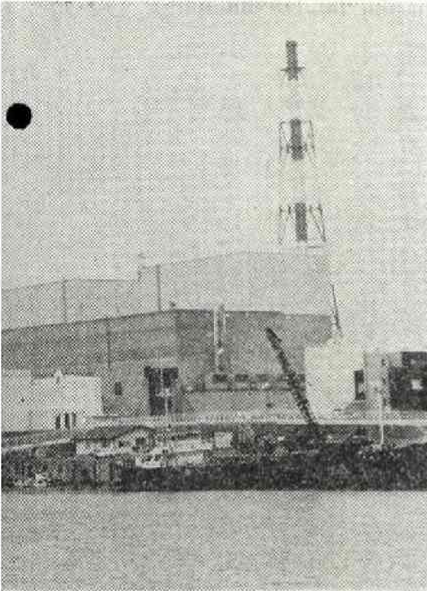
これらの方々にはお一人づつお礼を言いたい気持ちでいっぱいです。この会報の紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、私を事務局長に任命してくださった渡辺誠毅前理事長、酒井理事長をはじめ、各理事、委員の方々には大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

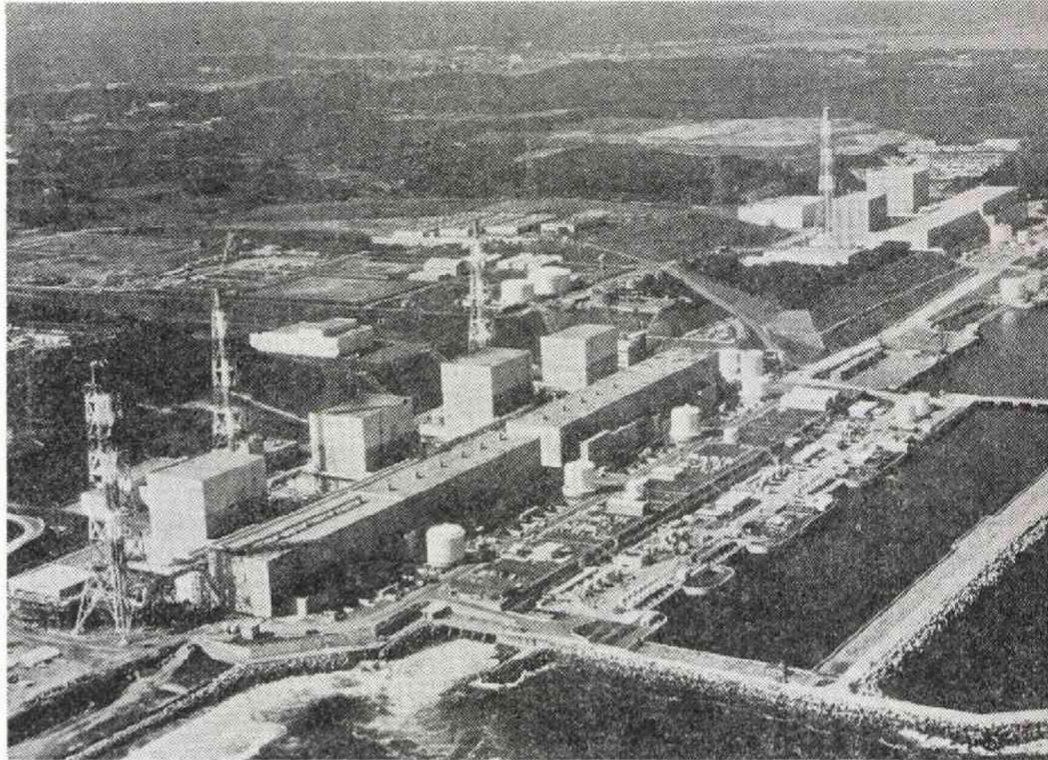
また桂前総務部長、佐藤総務部長はじめ事務局の諸君には、私を助けていただき、この五年半の任期を大きな失敗もなく過ぎていただきました。有難うございました。

クラブ員の皆さま、こんごはクラブ員同志として相変らずのおつき合いをお願いします。

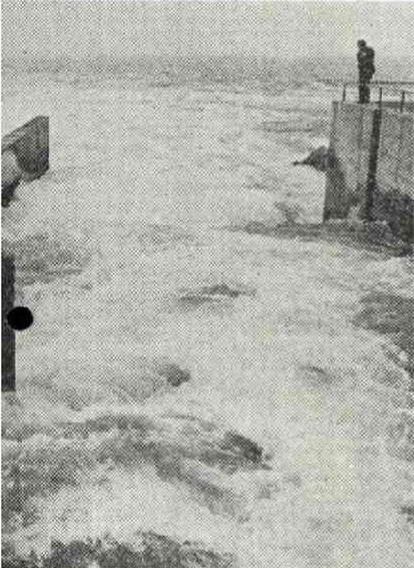
皆さん、長い間大変お世話になりました。有難うございました。



96,000 キロワット。

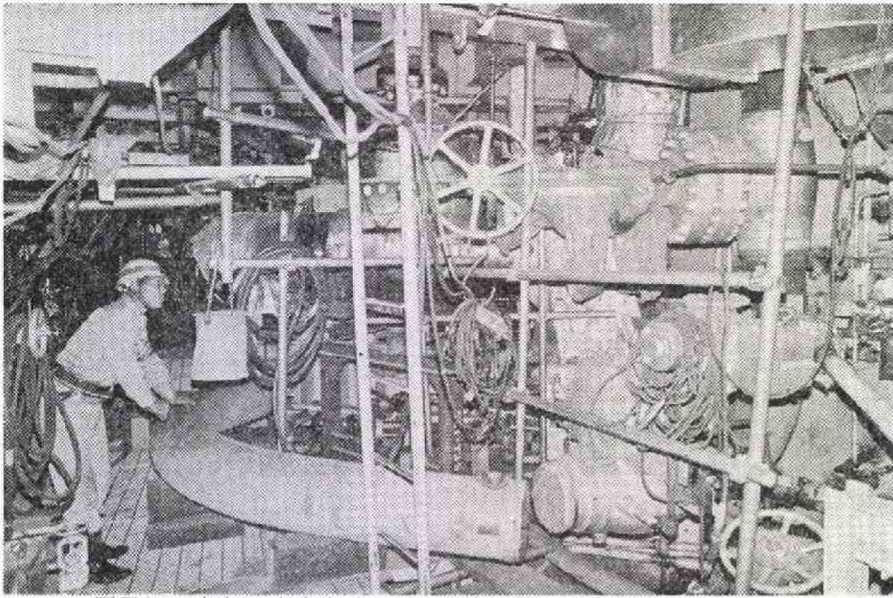


↑ 東電福島第1原子力発電所は、太平洋に臨む福島県の大熊、双葉両町にまたがる約320万平方メートルの敷地に建設された。

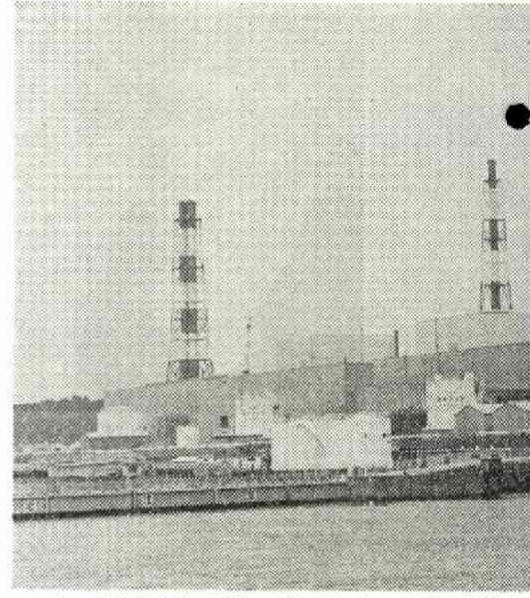


福島第Ⅰ・Ⅱ原子力発電所見学会

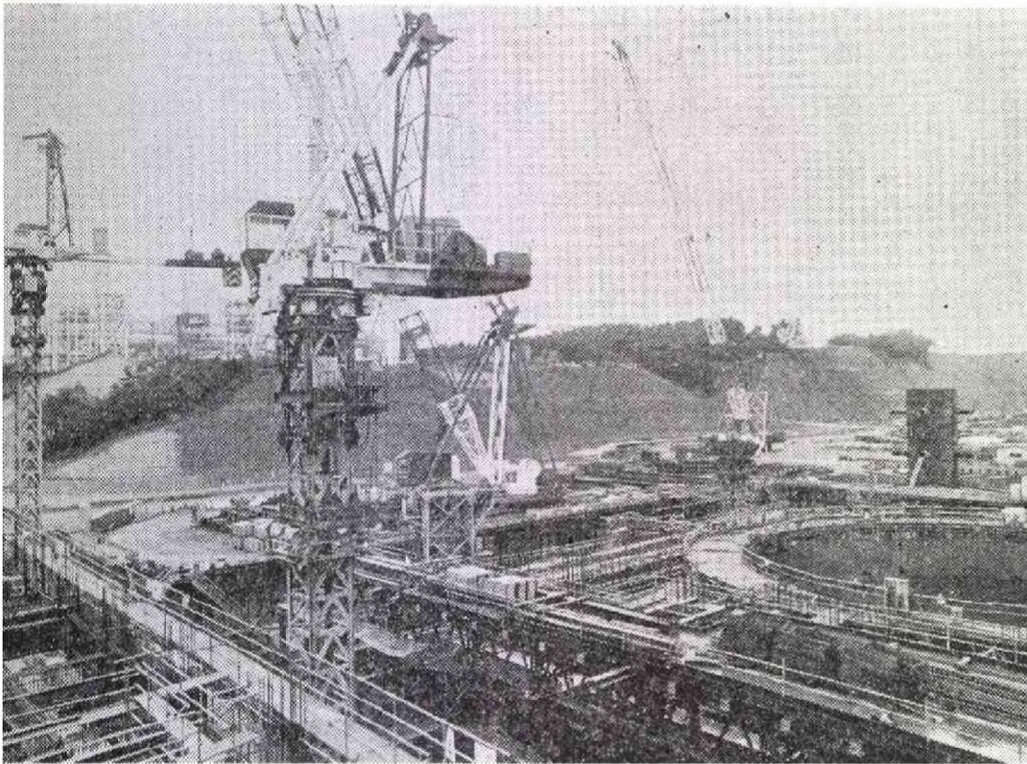
クラブは、賛助会員東京電力のご協力を得て、十一月十日、十一日の両日、同社の福島第一原子力発電所および建設中の福島第二原子力発電所の見学会を行った。参加クラブ員は二十名。東京本社からは原子力発電担当の常務取締役豊田正敏氏も説明役として同行して下さった。



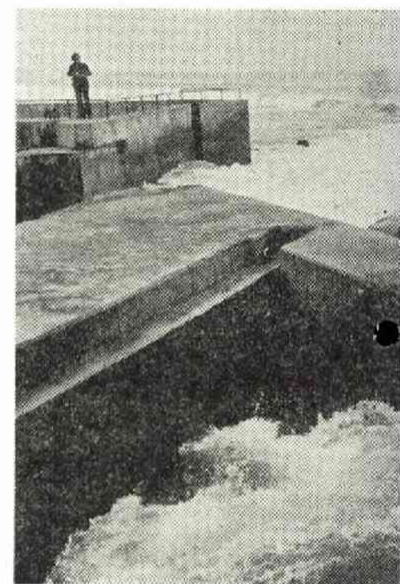
↑ 原子炉の底部。大小多くのパイプ類が入り乱れている。



↑ 原子力発電機4機がならぶ壮観、総出



← 二号機の建設現場。右側の円型の部分が耐震構造の頑丈な土台。この上に原子炉が据えられる。



↑ タービンを動かした軽水の蒸気を、復水器の中で冷やした海水は太平洋に放流される。



← 一号、二号のコントロールルームになる広い部屋。

⇒ 建設中の第二発電所では一号機の格納容器内を見ることができた。

あなたにとってオリンピックとは？

——キラニンIOC会長屋敷会から

ケンブリッジ大学を卒業後、「デーリー・エクスプレス」に入り、その後「デーリー・メール」に転じ、一九三七年には従軍記者として、日中戦争取材のために来日した、と語るキラニン会長(66才)。

23才の自信に満ちた記者として来日したときには、偉い人達になかなか会えずに苦労したのに比べ、いまはいろんな人達に会えるが、年令とともに自信も失い、立場としても記事を書けない身になってしまったが、皆さんとこうしていると、やはり同僚と同席しているという気がすると、自らの人生とオリンピック・ムーブメントをからませて話を進める。

オリンピックの機構と組織に触れ、その抱える課題について話した後、会員の質問に卒直に答えてくれた。

「国旗の扱い？」

私自身は国旗とか国歌がそれほど重要とは思わない。しかし、私の意見はマイノリティ。今後、オリンピックで国旗、国歌をどう扱うか、というような本質的な話を名古屋でしたわ

けではない。

「名古屋開催の可能性

？」

すでに東京で開催して



るということは、名古屋にとって不利な条件にはならない。

「一九八〇年で引退するの？」

立候補しないつもり。年をとると面倒だから、つくろぐが先に出て、クイエスグが後になりがち。

「あなた自身にとってオリンピックとは？」

異質の要素が一堂に会すること。平和の象徴。必ずしも一致しない意見を持った人々が集まり、意見を交換する場。大会開催だけでなく、若人に対してのスポーツ、レクリエーションの普及。

個人的取獲は世界中に多くの友人ができたこと。第二次大戦でアイルランドは中立の立場をとったが、私は志願して、ノルマンディー上陸作戦に加わった。しかし、私がもらった勲章の多くは戦争中の敵国から贈られたもの。

これがオリンピック・ムーブメント。異なるものの相互理解の場。

キラニン会長は多彩な人で、ジョン・ウエイン主演の「THE QUIET MAN」など映画の脚本を多数書いているほか、政治、美学に関する著書も多い。実業界ではアイリッシュ・シェルのほか十数社の会長や重役をつとめている。(54・10・29 出席36名)

学生気質は社会潮流の反映

——ハナ・グレイ シカゴ大学学長講演会から

ドイツ生れだそうだが、クリアーな美しい英語で、大学の本質的意義と将来、教育人の責務といった問題について語った後、会員の質問に答えてくれた。



大学教育が経済的優位性を与えるという面を強調すべきでない、と説くグレイ学長に

「日本では大卒がスーパード肉を切っていたりで、むしろ高等教育の持つ経済性が減少し、大学教育は不経済なものというか、高等教育過剰という側面も現象としてあるが？」

高等教育の目的は、人々を効果的にすること。独立心、批判精神、良い判断力などを付与し、多様性に適合できるようにする。教育に比して仕事の機会が少ないからといって、教育を過少にするなら、将来の職場の可能性をたやすことになる。

「日本では最近の学生について、おとなしく体制順応的との見方が強いが？」

現在のアメリカのいわゆる学生気質は、一九六〇年代のそれとは明らかに異なる。六〇年代のそれは当然五〇年のそれとも異なっていたはず。社会潮流の反映だろう。

七〇年代の特徴は、勉強を良くし、自己のキャリアをみがき、将来を慎重に考えるという傾向。彼らはラディカルな一つの行動が、世界を変え得るなどとは信じていない。変革へのインパクトは、個々人の人生や仕事を通じてゆっくりとしか達成されない、と考えている。

ある意味で六〇年代のさ折の上に彼らはいる。

(54・11・19 出席11名)

日本記者クラブ賞

授賞候補をご推薦ください

十一月七日開催の第46回理事会は、昭和五十五年「日本記者クラブ賞」の候補を、明年一月三十一日（木）締切りで募ることを決定しました。ふるってご推薦をお願いいたします。

▽昭和五十四年一月から十二月までの間の取材・報道・評論活動を通じて、とくにジャーナリズムの職業倫理ならびにジャーナリストの社会的地位の向上に功績のあった個人を、候補としてご推薦ください。

▽本賞はいわゆる「特だね賞」ではありません。ジャーナリストのすぐれた典型を示す実績・人物に与えられるものです。

▽候補有資格者は会員のみに限りません。法人会員の社員はすべて有資格者です。他紙他社のジャーナリストの方でも積極的にご推薦いただきたいと思えます。

▽受賞者は来年度のクラブ通常総会の席上で顕彰され、クラブの名誉会員となつていただきます。

▽これまでの受賞者は長崎新聞の松浦直治氏（49年度）、TBSの古谷綱正氏（50年度）、毎日新聞の松岡英夫氏・NTVの池松俊雄氏（51年度）、朝日イブニングの芝均平氏・NHKの磯村尚徳氏（52年度）、朝日新聞の松山幸雄氏（53年度）で、本年度は熊日の岩下雄二氏に贈られました。

▽推薦手続きなどの詳細については、事務局へお問い合わせください。

第46回理事会

昭和54年11月7日（水）
日本記者クラブ大会議室

前回の理事会で総務委員会に付託した事務局内規案を審議、これを承認した。

事務局から昭和54年度上期の実行予算結果の報告があり、これを承認。

昭和55年度「日本記者クラブ賞」の実施を決定。明年1月31日までで候補を募ることとした。

恒例の新年互礼会を明年1月17日（木）午後5時30分からクラブで開催することを決定。

出席 酒井理事長、小島、吉村の副理事長。理事 中江、若松、小林、菊地、深谷、井沢、江尻、杉山、前田。代理 加野、家城。監事 南風原、代理 安武。

第62回企画委員会

昭和54年10月4日（木）
日本記者クラブ大会議室

出席 藤村委員長。柴田、石丸、山本、吉村、加野、広瀬、平田、増山、高野、今井、鈴木、浅野、河野、田中の各委員。

第63回企画委員会

昭和54年11月9日（金）
日本記者クラブ大会議室

事務局から前回企画委員会以降の行事を報告後、11

月、12月のゲスト選考を行った結果、新聞僚のうち大来外相、竹下蔵相、宇野行管庁長官を昼食会ゲストの候補として交渉することを決定した。

また、明年1月17日の新年互礼会では、例年通り「予想アンケート」を実施することとした。

第31回会員資格委員会

昭和54年11月14日（水）
日本記者クラブ小会議室

出席 中江委員長。山本、赤松、滝沢、関口、遠藤、玉木、笠置の各委員。

■秋季ゴルフ会

近浪会員優勝

ゴルフ日和の十一月十六日（金）、第二六回ゴルフ会が桜ヶ丘カントリー・クラブで行われました。

距離が短いのでやさしそうに見えましたが、ピンポジションがむづかしく、皆さんベターに悩まされたようです。参加者は二一名。

優勝	近浪	廣（コンベンション・サービス）	グロス 80（BG）
二位	森垣	辰巳（サントレ）	98
三位	高橋	喜好（愛媛新聞）	101
BB	高山	晃（中京テレビ）	

「マーク入りカフス・タイピン」

価格改定のお知らせとお願い

クラブの創立以来ご愛用いただきありがとうございます。「マーク入りカフス・タイピン」の価格を、明年一月から左記のように改定させていただきます。

これは最近の地金の高騰のためであります。ご了承のうえ、今後ともご利用くださるようお願いいたします。

(金・銀)

- タイピン 六、五〇〇円
- カフス 八、〇〇〇円
- セツト 一四、五〇〇円
- (エナメル)
- タイピン 七、〇〇〇円
- カフス 八、五〇〇円
- セツト 一五、五〇〇円

目次

昭和54年の企画をふり返る	藤村邦苗	1
事務局長退任の弁	藤本有典	2
(写真特集)		
福島第1・II原子力発電所見学会		4
会議記録		7
事務局から		8

寄贈書

外交記者日記

宮沢外交の2年(下)

平野 実会員

ニュージージランドの産業と経済

水野潤一会員

東ヨーロッパに歌う 徳島少年少女合唱団(レコード)

四国放送

新しい会員名簿ができました

新しい会員名簿を作成しました。お手元に届いた名簿に落丁がございましたら、お取りかえいたします。事務局の岡崎までご連絡ください。

お知らせ 11月1日に実施した「パネル討論会」の講演記録はボリュームの関係で別冊にしてお送りすることにしました。ご了承ください。(20日発行予定)

訂正 前号会報掲載の講演記録中、ル・モンド誕生後今日までの年数が二五年とありましたが三五年の誤りでした。訂正いたします。

クラブ訪問者

7日/BASFジャパン・カンパニー社長、関広報担当 15日/東京電力荒木総務部長、和光広報課長 王振宇中国大使館二等書記官 16日/ワシントン・ナショナル・プレス・クラブ会員のロー・デイビス、ウォーレン・グッドマンの両氏 19日/ハンス・ヨアヒム・デアア西ドイツ大使館一等書記官 20日/天羽、加賀見新旧情文局長、渡辺情文局長 参事官

十二月の行事

10日(月)午後3時~4時 プランシヤール・I

LO事務局長記者会見 クラブ記者会見室

一月の行事

17日(木)午後5時30分~7時30分 新年互礼会

員懇親会 クラブ宴会場

年末・年始のお知らせ

クラブルームは十二月二十九日(土)午後5時で閉室させていただきます。新年は一月五日(土)から平常通り開室いたします。

事務局もクラブルーム同様、十二月三十日から四日まで休ませていただきます。

なお、恒例の新年互礼会員懇親会は明年一月十七日(木)午後5時30分から開催いたします。多数ご出席くださるようお願いいたします。会員の皆さま、よいお年をお迎えください。

事務局一同

会報委員長 小林淳宏 委員 山崎英祐、桂敬一

栗田 格

連絡 長谷川(旧姓・伊藤)五〇三一二七二一